

「富士駐屯地見学」を支援

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、1月15日（火）、焼津南ロータリークラブ会員25名の「富士駐屯地見学」を支援した。

この見学は、人道的奉仕活動を目的とする団体が陸上自衛隊の理解を深めるために行われ、当日は駐屯地の概要説明を受けた後、資料館や整備工場、装備品の見学等を実施した。

当初見学者達は、自衛隊の活動イメージは、訓練ばかりの印象を持っていたが、整備工場での10式戦車、90式戦車、2003ミリ自走榴弾砲等の整備の現場を見学することにより、整備の重要性を知り、自衛隊の業務が多岐で幅広いことを理解していた。

その後、見学者は隊員が普段食べている食事の体験喫食を行い、そのポリウムのある内容に驚くとともに、最後に静岡地本援護課から退職自衛官と予備自衛官等の援護制度について説明を受けた。

静岡地本は、今後もこのような有識者の団体による見学機会を活用し、自衛隊に対する理解と関心を深めてもらうとともに、優秀な人材の確保や退職自衛官の再就職等の援護に協力してもらうように関係強化に努めていく。



「ホビーのおまつり」で自衛隊をPR

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、1月19日（土）と20日（日）、ツインメッセ静岡で開催された「タミヤフェア2016」において、陸上自衛隊第34普通科連隊（板妻駐屯地）及び第1戦車大隊（駒門駐屯地）から支援を得て広報活動を実施した。

このフェアは、「模型の世界首都・静岡」を代表する模型メーカー・株式会社タミヤが主催し、今年で18回目を迎えた。2日間で約2万6千人が訪れる大きなイベントである。

当日は、広い館内に様々な体験コーナーや物販ブースが並び、自衛隊ブースの軽装甲機動車や96式装甲車といった陸上自衛隊の装甲車両は一際来場者の目を引いていた。

来場者は制服・迷彩服の試着体験やドローン体験、車両との記念撮影を楽しむとともに、自衛官の採用制度説明コーナーにも足を運び、「体力に自信がないが大丈夫か」「パイロットになるにはどうすればいいか」といった様々な質問をしていた。また、広報官から説明を聞いた小学生は「将来戦闘機パイロットを目指して、今から勉強や運動を頑張りたい」と意気込みを語っていた。

静岡地本は、今後もこのような地域の大きなイベントへ積極的に参加し、自衛隊への興味や関心を高め、熱意ある若い志望者獲得に向けて邁進していく。

